

「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ 調査二課 岡内 雅士

6月16日から4泊5日の日程で、「宮城県を元気にする高知応援隊」の一員として、宮城県内の被災地において、炊き出しや清掃作業等のボランティア活動に参加してきたので、その活動内容を報告する。

6月16日(木)

本隊は17日に高知龍馬空港より出発するが、私は被災地に寄贈する自動車の輸送班として、(株)第一コンサルタンツ本社を前日に出発、翌日の集合場所である仙台駅東口を目指した。

輸送する自動車は、トヨタのガイアと日産キューブの2台。当社の社員6名が分乗し、物資等を積み込み11時に出発。



寄贈する自動車と輸送班

走行経路は、高知ICから高知自動車道に入り、高松道～瀬戸大橋～山陽道～中国道～名神道～北陸道～磐越道を経て東北自動車道仙台南ICに至る。走行距離約1,200kmの道のりであった。

6月17日(金)

高知を出発して約20時間、道中激しい降雨や眠気と闘いながらも朝7時頃、無事仙台市内に到着した。仙台市内の様子は、一部の建物で瓦屋根や外壁材の落下、窓ガラスの破損等が見られたが、それほど大きな被害は感じられなかった。

仙台駅東口にある代々木ゼミナール仙台校前で本隊と合流。自動車を他の隊員に引き渡し、バスで被災地の視察に向かった。



仙台駅東口付近



本隊と合流

視察先は仙台市に隣接する多賀城市、七ヶ浜町、塩竈市である。バスの車窓からの視察であったが、七ヶ浜町ではバスを降り、実際に現地を歩いてみた。

○多賀城市

多賀城市は仙台市の東側(太平洋側)に位置し、津波の被害に遭った地区であるが、バスで移動した幹線道路は渋滞もなく、ガレキ類もある程度収集されており、復興に向けて進んでいるように思われた。



港付近の道路



山積みされたガレキ

○七ヶ浜町

視察した地区は高台の一部を除き、壊滅状態であった。東日本大震災からこれまで、テレビの映像や新聞等を通じ、被災地の状況を見てきたが、実際にその場に立つと改めて津波による被害の大きさを実感した。

海岸沿いの集落は、元の町並みが想像できないほどの状態である。木造建物は、基礎と床組だけ残っていた。土台は、基礎にアンカ - ボルトで固定されているため助かり、柱から上部は津波で押し流されていた。



津波で破壊された町の様子



木造の建物跡

海岸には、ガレキ等といっしょに多くのコンテナが散乱していた。この砂浜の海岸は、「菖蒲田海水浴場」と呼ばれる県内有数の海水浴場で、例年夏のシーズンになると多くの人が集まり賑わう場所である。



海岸の様子

○塩竈市

バスから見た港の状況に驚いた。目測であるが、水面から岸壁までの高さが 30cm も無い箇所が見られた。通過した時刻は 16 時頃である。この日の仙台塩釜港の潮位(17 時 50 分頃に大潮の満潮を迎える)からすると、まだ潮が満ちていくと思われる。



バスから見た港の様子

各被災地を視察後、今日から 2 泊 3 日の予定でお世話になる松島町の野外活動センターに到着した。センターでは、1 日目に手打ちそば、2 日目に仙台牛のバ - ベキュ - と暖かいおもてなしをしていただいた。



野外活動センター



2日目の夕食

6月18日(土)

南三陸チ-ムと気仙沼チ-ムに分かれ、炊き出し等のボランティア活動を行った。私は気仙沼チ-ムとして、気仙沼高校での活動に参加した。予定では、気仙沼に10時到着であったが、途中の海岸線の国道は道路事情が悪く、渋滞しており、11時到着となった。

早速、炊き出しの準備に入る。メニューは、「赤うしかれ」「鶏の唐揚げ」「ナスのタタキ」「野菜スープ」である。トラックから荷物を降ろしていると、「こんにちは。今日は何を作ってくれるんですか」と明るく元気な声が聞こえた。気仙沼高校の学生である。被災地のみなさんに明るく声を掛けてもらい、チ-ム全員が俄然やる気になった。チ-ムワークも抜群であった。



炊き出し準備中



みなさんが書いてくれたメッセ-ジ

炊き出しの後、高校の体育館で「よさこい鳴子踊り体験」を行った。館内はダンボールで仕切りがされ、まだ多くの方が避難所生活をされていた。よさこい踊りを楽しみにしていた方もいたようで、被災者のみなさんも鳴子を持って楽しそうに踊ってくれた。



気仙沼高校の体育館

気仙沼高校には、わずか4時間の滞在であったが、被災者のみなさんと触れ合い、充実した時間を過ごすことが出来た。

6月19日(日)

多賀城市で片付け作業等のボランティア活動を行った。多賀城市役所に併設された災害ボランティアセンターには、朝から多くの方が集まっていた。ここで受付すれば作業内容等をその場で指示してくれる。個人や団体での参加や当日飛び込みでの参加も可能で、手袋や長靴、マスク等も貸出ししてくれる。



災害ボランティアセンター前

午前中は市内にある、大代地区公民館の体育室床の清掃作業を行った。この公民館も津波による浸水被害を受け、体育室の床は泥だらけであった。明日から集められた写真等の展示を行うとの事で、清掃後に机を並べ作業は終了した。写真は終了後の様子を撮影したものである。



大代地区公民館の体育室

午後は個人宅の片付け作業を行った。写真は個人宅のため控えたが、延床面積が100㎡程度の一般的な木造二階建住宅であった。この建物も津波により、一階部分は完全に浸水したそうである。ここでは、前日からこの建物の片付けをされているボランティアのみなさんと協力して作業にあたり、全ての片付けを完了することが出来た。この隊長の話によると、この建物の片付けに2日間、私たちも含め述べ人数にして47人の人出を要したとのことである。

周辺を見ると、まだ片付けを必要とする建物が多く見られた。初日にバス移動で多賀城市を視察した時には、復興が進んでいると感じたが、現状はまだ多くのボランティアを必要としている。



午後から一緒に活動したみなさん

6月20日(月)

今日は最終日。帰りの集合時間まで、松島町の景勝地である松島海岸に行った。遊覧船乗り場近くの海岸沿いに土産店が立ち並んでいた。まだ営業を再開していない店舗も多く見られ、震災の影響なのか、観光客は疎らであった。

帰りは仙台駅から東北新幹線で東京まで戻り、羽田空港から最終便の飛行機を利用して無事高知龍馬空港に到着した。



海岸沿いの土産店



遊覧船乗り場

最後に

高知応援隊のみなさん、本当にお疲れ様でした。みなさんとご一緒させていただいた被災地への視察、気仙沼での炊き出し、多賀城市で行った片付け作業等のボランティアは、私にとって大変貴重な経験となりました。震災からおおよそ100日が経過しましたが、被災地はまだ多くの支援やボランティアを必要としています。これからも機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思います。そしていつの日か、復興して元気になった宮城を訪れてみたいと思います。